

英語科学習指導案

指導者 山崎 健志

1. 日 時 平成18年 7月7日(金) 2校時
2. 学 級 1年 2組 男子21名 女子15名 合計36名 南校舎4階
3. 主 題 NEW HORIZON English Course book 1 Unit 4 『日本大好き』
4. 主題について

本単元は日本的なもの、日本に関係するものをめぐってのマイクとジュディの3つの対話で構成されている。それぞれオーストラリアとアメリカ出身の二人が、「折り紙」「日本語」「日本食」についての対話を行っている。教科書では未知のものや自分が知りたいことに対してwhatを必然的に用いる場面設定がなされており、日本のものについての質問をされたときに答えや説明をするためのにも有意義な単元である。ある物を見てそれが何であるかをたずねたり、相手の好きな教科、朝食に何を食べたのかなどをたずねるためには、本単元で扱われている言語材料のwhatは必須である。Part1ではwh-疑問文の初出として“What is this?”を扱う。対象物の名前をたずねたり、英語で何というのかなどをたずねることができ、語彙を増やしたり対話のきっかけにできる有用な文であると考え。文の機能としては基本的には未知のものに対して用いるものである。またPart2の“What is your favorite...?”は相手の興味関心についてたずねることができ、形容詞の叙述用法をあわせて扱うことで自分の考え方や感じ方を表現できる。さらにPart3の“What do you have...?”では朝食に何を食べたのかが話題となり、これまでYes/Noで答えられる疑問文でしか対話ができなかった生徒にとって、疑問に思ったことを質問できる範囲が広がりより実用的な対話ができるようになる。

1年生はこれまでの英語学習で、主に「聞く」「話す」活動を中心に行ってきた。基本表現をもとにその表現が使用される自然な場面を取り入れながら練習に取り組んでいる。この単元で学習する what は、実は教師がクラスルームイングリッシュの中で使用する頻度の高い単語である。生徒は教師の問いかけに反応して活動ができているので、全くの初出ということではないと考える。また、6月末に実施した実力テストの分析から次のような実態がわかった。文の機能を理解して場面に応じた英文を使えるかどうかを確かめる問題では、選択肢がある場合は正解率が高く、文字を見て判断することや音声としての理解度は高いことがわかる。一方で文として書かせる問題ではつづりを正確に書くという点が不十分であった。今後書くことの指導を工夫する必要がある。全体的に元気のいい男子に対してややおとなしく自己表現が苦手な女子なので、英語を発話する雰囲気作りや互いに関わり合うことを大切に学習に取り組ませることが今後必要である。また、各クラスに3～4名の文字の認識が弱く援助の必要な生徒がいるので配慮が必要である。

以上のような教材と生徒の実態から、本単元は次のように扱っていく、文法指導は言葉による説明を極力少なくし、定型句の表現としてとらえさせていきたい。「聞く・話す」はそれぞれの表現が使われている場面を設定し、実際の発話に近い形で練習に取り組ませたい。What の文は相手のことについての質問やそれに対する応答を豊かに仕組むことができ、自己表現活動を活発にさせて浸透させることができる。考える。「読む」については、文のイントネーションやリズム、発音に注意させながら本文の音読指導をしてモデルに近づけさせていきたい。また、「書く」についてはインタビューなどの活動を通して聞き取った内容を英文で再生させることで、基本表現や既習事項を定着させていきたい。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている
理 解 の 能 力	相手の話している内容を正しく聞き取り、応答している
表 現 の 能 力	What が使われる場面や状況を理解し、適切に使用している

7. 本時の指導の構想

(1) 指導構想及び留意点

自分が興味を持ったものや、未知のものに対して「何だろう?」と思うのは自然なことである。本時の導入段階では未知のものを提示し生徒に「何だろう?」という疑問を持たせ、学習課題の設定につなげたい。本時の基本文“What is this?”は定型句の表現としてとらえさせ、パンプラクティスを通して浸透させたい。また、教科書では折り紙のことをよく知っているマイクがジュディに教えようと「これ、な～んだ?」という質問をする場面が取り上げられている。基本的な機能を抑えさせた上で、“What is this?”はこのような場面でも使用されることをフォーマットを基にした対話の中で使わせながら理解させていきたい。

(2) かかわりあい生かす手だてについて

本時における「必然性」は、導入段階の視覚的な教材を用いて生徒に「何だろう?」という気持ちを持たせるところにある。また、「よりどころ」は基本文型や対話のパンプラクティスとなる。言語材料がしっかりと生徒に浸透するように指導したい。「ことば」についてはプロダクションの部分で、学習した表現をもとに生徒を関わらせ合いながら、場面や状況にあった使い方ができるように練習をさせたい。

8. 本時の展開

<A>達成度 学習速度 <C>取り組み方(学習の仕方)
 <D>見方・考え方 <E>興味・関心 <F>生活経験

段階	過程	時間	学習活動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・ 教具
導入	学習課題把握	10分	1. Warm upをする。 (Dangan Input) 2. 学習課題を把握する。 Whatを使って質問したり、それに応答したりできるようになる		1. 個人で、ペアで時間内に warm upに取り組むよう指示する。 B 2. 絵やPCから「何」という言葉を引き出し、本時の課題設定に結びつける。	個人 ペア Dangan Input シート 絵 紙板書
展開	プレゼンテーション プラクティス ブラクティス ブラクティス	35分	3. 基本表現の意味と用法を確認し、質問と応答の練習をする。 4. 4人グループ(母集団)になり、それぞれが自分の責任を持つ9人グループ(情報確認集団)に分かれる。情報を英語で確認し言えるように練習する。 5. 確認後もとのグループに戻り情報交換をする。聞く側はメモを取る。 6. What is this?のクイズの対話を練習する。 7. What を使って対話をする。(フォーマットに基づいて) 8. 教科書本文を学習する。 ・単語の発音練習 ・場面の確認 ・音読練習	4. [関心・意欲・態度] 英語を使って積極的に活動をしている。 観察 A: 相手を意識 C: メモを基にできるだけ相手を意識して質問、応答をさせる。 7. [表現の能力](話す) 基本表現や既習事項を使って質問、応答する。 観察 A: 発音・声量・解答に対する反応 C: 板書や学習シートを基に質問、応答をさせる。	3. 言語を使用する場面、言語の機能について理解させる。 D 4. 声量・アイコンタクトなど相手を意識した活動をさせる。 F 6. クイズ形式で質問すること、正解の場合と不正解の場合の応答を理解させる。 D 8. パターンプラクティスで学習したことをよりどころに、基本的な質問・応答をさせる。 A 8. 基本文が使われている場面や状況を確認させる	PC 紙板書 学習シート 4人グループ 9人グループ 学習シート ペアワーク
終末	まとめ	5分	9. 今日の学習を振り返る。		9. 評価をさせ本時の学習を振り返らせる。 自己評価・相互評価	学習シート

1年 英語		単元(題材)名 Unit 4 日本大好き			総時間 4時間扱い		
<p>学習指導要領の指導事項</p> <p>A(聞くこと) ウ質問や依頼などを聞いて適切に応じること。</p> <p>B(話すこと) ウ聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること。</p>							
単元の目標		主な学習活動	評価規準	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化についての知識・理解
<p>・物や相手のことについて疑問詞 what を使って質問したり応答できる。</p> <p>・相手の質問に形容詞を使って具体的に答えられる。</p>		<p>自分が興味のあるものや未知のものについて問答する。</p> <p>好きな教科、スポーツ、相手の朝食などについて問答する。</p>	<p>B = 「おおむね満足できると判断される状況」</p>	<p>指示に従って英語を話そうとしている。</p>	<p>相手の話している内容を正しく聞き取り、応答している。</p>	<p>相手に伝わるように正しく話している。</p>	
			<p>A = 「十分満足できると判断できる状況」の例</p>	<p>進んで英語を話そうとしている。</p>	<p>正確に聞き取り、なめらかに答えている。</p>	<p>なめらかに説明したり質問している。</p>	
			<p>C = 「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<p>英語らしい発音を恥ずかしながらできるように、集団の前ではなく個別に発音させる。</p>	<p>キーワードにより意味を類推させ、ヒントを与えて答えさせる。</p>	<p>再度基本文練習をさせ、ヒントを手がかりに応用させる。</p>	
次	時	主な達成目標	主な学習活動	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	理解の能力	表現の能力	言語や文化についての知識・理解
1	(本時 1/1)	<p>疑問詞 what を用いて自分が知りたいものをたずねることができ、質問に応答できる。</p>	<p>what をつかってクイズ形式で質問応答をする。</p>	<p>伝え合う相手を意識して活動している。</p>		<p>基本表現を用いて、相手に伝わるように質問・応答している。</p>	
2	2	<p>疑問詞 what を用いて相手の好きな教科やスポーツ、朝食に何を食べたかなどについてたずねることができ、形容詞の叙述用法を用いて自分の考えや感じたことを伝えることができる。</p>	<p>what を用いた文で、互いにインタビュー活動をする。</p>		<p>たずねられたことを正しく聞き取り、応答している。</p>	<p>学習した表現を用いて正しく質問・応答している。</p>	
3	1	<p>what を含む文の語順が理解でき、場面やたずねたいことに応じて適切に質問応答できる。</p>	<p>what を使って相手から情報を聞き出す。</p>	<p>学習した表現を積極的に用いて活動している。</p>		<p>学習した表現を場面や言いたいことに応じて適切に用いて問答している。</p>	